

# 恵みと真理のニュース



2016年1月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## 【証】

### 私の魂を救ってくださり、病気を治して下さって主に献身する

#### 楽しむを享受するようにして下さった神様に心から賛美を捧げます

私は祖母が寺を所有するほど酷く偶像崇拝をする家庭で生まれ育ちました。幼い頃は祖母がいる所で育てられました。結婚して子供を産み原因も知らない病気にかかってしまい起きられない体になりました。

ソウル大学で“タカヤス動脈病という珍しい病気の診断を受けました。当時2ヶ月のあいだ入院して治療を受けましたが治るおろか時間が経つほど病気が悪化され体重が33kgまで減りました。病院では希望の話もなくて退院すると言われてました。私の人生で死に近づくと感じました。仕方なく退院して家で横になっている時に牛乳を配達する区域長がそんな私をかわいそうに思って伝道しました。以前は誰から伝道されても断って教会に行くことを心に受け入れなかったですが、生きたい切ない心があったので区域長について教会を通い始め全ての礼拝に参席しました。そうしながら生きておられる全能な神様を信じ聖霊洗礼を受け区域礼拝でいげんの賜物も受けました。

旦那の職場について遠いコゼドで引っ越ししても熱心に教会を通いました。忠実に礼拝を捧げて薬を飲むと徐々に回復しました。熱心に熱心に何年が過ぎて水源のヨントンで引越をしました。一年間は教会を決めなくてあちこち回りながら

恵と真理教会の超ヨンモク牧師の説教で恵まれて一人でヨントン聖殿で礼拝を捧げました。主日礼拝はもちろん平日礼拝も休まずに捧げて信仰の御言葉で根を下ろす信仰で成長しました。

神様の恵で信仰と人柄が立派な区域長に出会って教会で登録して所属と愛を持って熱心に信仰生活をしました。病弱な私を哀れんで下さり、その暖かい懐に抱いて慰めと平安を与えて下さる主に人格的に会いました。

イエスキリストの贖いの恵と真理について確実に悟って信仰を持つようになり、神様の栄光をため主を喜ばせてキリストが尊いように人生を生る理由と目的も確かに知るようになりました。ある日は当会長の牧師について教会の3対目標祈りのため祈ると心が感動され涙が出ました。聖霊の願いと熱心を与えて下さり献身するようになりました。

私は広告に関連する事業するが特に中国の留学生達が私達の事業場でアルバイトをします。私はその留学生に頑張って福音伝道しました。たとえ、韓国に長く生活が出来なくてすぐ中国に戻る学生ですが、神様の御言葉は力を発揮し生きており心に種を植えると育てて実を得て主から用いられる者になるのを期待し、教会に来て御言葉を聞くように熱心に伝道しました。

神様の国が拡張に用いられる事業場になるように願い祈った

ら神様が福を与えて下さり、安定され経済的に大きく成長しました。10年前100万ウォン十分の一献金をするように祈ったら成し遂げられ500万ウォンの十分の一献金を捧げ一教会設立と百万聖徒のビジョンのため大きく用いられるように祈りと努力もしています。

世では満たされない心がイエス様に満たされ満足になって神様に離れては生きられないことを感じ 主だけを委ねます。聖霊が私の心と考えを導いて下さりどんな状況でもいつも明るい心と顔で生る真の平安を享受します。主の中で毎日が楽しく幸せです。

今回の年越し礼拝で当会長の牧師が下さった御言葉が私に大きく感動を受けました。受けた御言葉に従って一生揺れない信仰でイエスキリストの贖いの恵で神様の子になったことを確信します。主がいつも私と共におられて助けを下さる信仰で御国の永遠な福と主からいただく賞を期待する信仰で生きます。神様は子供達に約束して下さった多くの約束が期待され再臨する日、主に会うことを考えると心がわくわくします。私の魂を救って下さり、病気も癒して下さって主の事に献身する楽しむを与えて下さる神様の父に心からでる真実な愛の告白と賛美を捧げ感謝します。



## 【信仰コラム】

### 根本的で必須である福

”この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。”(ヨハネの黙示録1:3)

聖書には肉親の安楽に関連されていることを福の要件に認めている一方で、より根本的な要素を扱っています。そして、必須である福の要素を啓示しています。ヨハネの黙示録を見ても「さいわいである」と明示されているお言葉をもって根本的で必須である福の要素に関して調べてみましょう。

第一は、「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。(ヨハネの黙示録1:3)」と記録されています。ここで「預言の言葉」とは狭い意味でヨハネの黙示録に記録されているお言葉を指しますが、広い意味では聖書を指します。聖書を所有することは聖書を読むという前提の下で幸いなことです。今日の教会では説教者がいて聖書のお言葉を悟った心で詳しく説明してくれます。心を開いて耳を傾け神様のお言葉を聞く人は救いに至る信仰を得るようになり神霊な信仰を得ます。聖書に記録された神様のお言葉に従うと神様がその人の生涯を担ってくださいます。

第二、「またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわい

である』」。御霊も言う、「しかし、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく。」(ヨハネの黙示録14:13)と記録されています。イエス様は主を信じて迎接する者にこの世が与えることとは異なる喜びと平安を与え、心の休みを与えてくださいます。そして、イエスキリストを信じて仕える生活をして死んだ人、主の中で死を迎える人に「死」ということは永遠な安らいに導き称賛と賞を与えて下さる主の前に進んでいく過程に過ぎません。

第三、「(見よ、わたしは盗人のように来る。裸のまま歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。)」(ヨハネの黙示録16:15)と記録されています。ここで着物とは聖書通りに信じる信仰を意味します。人間の知識と非聖書的な神学思想に魅了されたり迷って純粋な信仰を捨ててしまうと彼の魂は裸の状態になってしまいます。

第四、「それから、御使はわたしに言った、「書きしるせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。またわたしに言った、「これらは、神の真実の言葉である。」(ヨハネの黙示録19:9)と記録されています。ここでの「小羊の婚宴」とはイエス様を信じて救われた聖徒達がキリストと一つになりキリストと共に永遠で誠な喜びを享受するようになることを

比喩的に表現した言葉です。

第五、「この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。」(ヨハネの黙示録20:6)と記録されています。復活には聖徒達の復活と不信者達の復活があります。死亡には第一の死と第二の死があります。全ての人々の死が第一の死に属します。第二の死は不信者達が審判の復活をした後、最後の審判を受け火と硫黄で燃える池に投げられることを意味します。第一の復活すなわち、聖徒の復活に参加する者は審判を受けて池に投げられる心配をすることは必要のないことであり神様とキリストの祭司長になって千年の間キリストと共に支配するようになります。

第六、「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである。」(ヨハネの黙示録22:14)と記録されています。「自分の着物」はイエスキリストによって得られるようになる正しさと清さを意味します。いかなる人為的な方法でも罪人が正しくなることはできません。徹頭徹尾イエスキリストの贖いの恵み、キリストの尊い血に頼るべきです。イエスキリストによる正しい着物を着る人々は新たなエルサレムに真珠の門を通して命の木がある城に入らねばなりません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## 憂鬱な心を治める秘訣



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

今日は “憂鬱な心を治める秘訣” を調べます。

人々は生命が脅威される状況に処すれば暮すために全力をつくします。ところで奇妙にも日々地球には生をあきらめて自ら自分の命を捨てる人々がいます。自殺の原因を分析して見ればとても多様です。罪責感、日常的けんか、喪失や別離、無視される、裏切られ、孤独、神経衰弱、勉強と未来に対するストレス、厭世、怒り、不安、挫折、ひどい劣等感、社会的圧迫感、失恋、家庭不和、事業失敗、失職、病苦、生活苦、ホルモン以上などの原因があります。自殺原因で大きいパーセントを占めること中の一つが鬱病です。鬱病にかかった人は気持ちが落ち込んで何や悲観的に考えられてささいなことが心を支配して心細くて耐えることができないし、まるで灰色世界に押しえ付けられたような感じることになるということが医学的な説明です。世を暮しながら憂鬱な感情を感じて見ない人はいないだろう。しかしこのような精神的な障害が深くそして長期間続いたら最悪の状態に至るようになります。私たちがどのようにすれば憂鬱な心にならないように鬱病を予防して治癒しながら生きて行くことができますか？こんな質問に対する答をよく見ます。

**まず、私たちが分からなければならないことは誰も憂鬱な心の状態を経験するようになるという事実です。**

聖書に出る傑出した人物も例外ではないです。ダビデも憂鬱な心の状態になった事があります。ダビデはエホバ神様を向けた信仰がまことに深い人であり勇ましかったです。ダビデは巨人ゴリアテと争って彼を殺してイスラエルが勝利するようになりました。このようなダビデに患難が多かったです。ダビデは彼をそねんで殺そうとするサウル王によって数年の間に逃避しながら過ごしました。何回危機を経ました。王になった後にも苦難が多かったです。息子アブサルロムが叛軍を導いて王宮を向けて進撃して来ることを見て裸足で泣きながら逃避道に上がったりしました。詩編には彼が直面した状況を描いておきました。“主よ、わたしに敵する者のいかに多いことでしょうか。わたしに逆らって立つ者が多く、彼には神の助けがない”と、わたしについて言う者が多いのです。”(詩篇, 3:1, 2) “人々がひねもすわたしにむかって「おまえの神はどこにいるのか」と言いつづける間はわたしの涙は昼も夜もわたしの食物であった。わたしはかつて祭を守る多くの人と共に群れをなして行き、喜びと感謝の歌をもって彼らを神の家に導いた。今これらの事を思い起して、わが魂をそそぎ出すのである。”(詩篇, 42:3, 4) ダビデは苦難が重畳されて人々の物笑いをかうようになって祈祷回答さえ引き延びになったら心が憂鬱になって昼夜に泣きました。

偉大なエリヤは予言者も憂鬱な心を持ったことがありました。エリヤはアハブ王とイスラエル民が偶像崇拜を捨ててエホバ神様を敬排する信仰を回復するようにするために危険を冒して献身的に活動しました。エリヤはガルメル山でパアル予言者との対決で勝利しました。そして祈ったら3年6ヶ月の日照りが終わって雨が降り注ぎました。アハブ王が王后イセベルにガルメル山であった事を話しました。エリヤの神様が火で回答した事、パアル予言者の死、そしてエリヤが祈ったら日照りが終わった話を聞いた王后イセベルは激怒して24時間内にエリヤを殺すという通牒をしました。

ここでエリヤは遠くフェルセバまで逃げました。そして一人きり荒野に入って行ってれだまの木の下に座って精根がつきたまま鬱病に陥りました。彼はれだまの木の下に座って言うのを“自分は一日の道のりほど荒野には行って、れだまの木の下に座し、自分の死を求めて言った、「主よ、もはや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません。」”(列王紀上, 19:4) としました。エリヤが空腹と疲労でくたびれてれだまの木の下に横になって寝るのに天使が来て食べ物を食べなさいと言いました。起きて見たら炭火に焼いた餅と水一本があって食べて飲んだ後また横になって寝ました。エホバの使い者が再び来て再び餅と水を飲んで飲むように勧めました。彼が起きて食べて飲んだ後に神様の山ホレブまで四十日を歩いて行きました。彼がそこである洞窟に入って夜を過ごすのに、エホバのお話が彼に臨んで“エリヤよ、君がそこで何をしているのか?” としました。相変らず彼は鬱病に陥って神様にぐずぐず言いました。“「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀をもってあなたの預言者たちを殺したのです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています”(列王紀上 19:10)。鬱病に陥った人は自分自身の外に思わないです。自分だけが正しくて自分だけが一番困難に処したと思います。

世の中で困難と苦痛を全然経験しないで暮す人はいないです。困難と苦痛にあえば憂鬱な心の状態になることができます。困難と苦痛を感じるようになる状況と言うのは仮に肉体的で経済的なことだけではないです。ノーベル文学賞を受賞して名声と財物を皆持つようになったオニストヘミングウェイやガワバダヤスナリのような有名な作家も鬱病に陥って自殺しました。ところで私たちが留意しなければならないことはダビデやエリヤは困境と危機に直面して憂鬱な心状態になったが憂鬱な状態が持続しなかったです。まっすぐに憂鬱をふるい出して正常に帰って来ました。

**次は、憂鬱な心の状態にならないようにするための方法をよく見ます。**

**第一、鬱病がひどければ専門医の助けの必要があります。**

食べ物、医薬品、医者の手助けも神様が人の健康の慈しんでくださった恩寵です。特に脳神経伝達物質であるドーパミン、セロトニン、ノールアドレナルリン、メラトニンの減少による場合には抗憂鬱制の処方を受ける必要があります。更年期鬱病で苦しむ方はマグネシウムを取ることでまっすぐに効果を得たりします。規則的に適度な運動をして日光に露出する時間をたくさん持つことが必要です。健全な対話、信仰に属した対話をたくさんするように努力しなければなりません。

**第二、事毎に最善をつくして結果は神様に任せなければなりません。**

すべての事の結果まで自分つぼにはまらなければならないという考えは神様の主権を拒否する態度です。神様の導くことと決定どおりなることが終局には一番よくできることを信じなければなりません。理解ができなくても早い素直に収容するのが成熟した信者の態度です。神様は自分を徹底的に信仰する者が数値にあわないようにします。神様の善良で真実を信じた者のために予備なされた賞をこの世でそれとも天国でくださるでしょう。

**第三、他人と比べて競争しながら暮さずに神様を向けてまじめに生きて行くことを目標にしなければなりません。**

ソロモンが記録するのを“わたしの心は知恵をもってわたしを導いているが、わたしは酒をもって自分の肉体を元気づけようと試みた。また、人の子は天が下でその短い一生の間、どんな事をしたら良いかを、見きわめるまでは、愚かな事をしようと試みた。わたしは大きな事業をした。わたしは自分のために家を建て、ぶどう畑を設け、園と庭をつくり、またすべて実のなる木をそこに植え池をつくって、木のおい茂る林に、そこから水を注がせた。わたしは男女の奴隷を買った。またわたしの家で生れた奴隷を持っていた。わたしはまた、わたしより先にエルサレムにいただれよりも多くの牛や羊の財産を持っていた。わたしはまた銀と金を集め、王たちと国々の財宝を集めた。またわたしは歌うたう男、歌うたう女を得た。また人の子の楽しみとするそばめを多く得た。そこで、わたしはわが手のなしたすべての事、およびそれをなすに要した労苦を顧みるとき、見よ、皆、空であって、風を捕えるようなものであった。日の下には益となるものはないのである。”(伝道の書 2:3~8, 11) しました。

ソロモンは伝道の書に次のような結論を記録しました。

“事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。”(伝道の書 12:13)。“成功するために競争で勝って先に進むようにしなさい。目標を立てて夢を持って専心全力しなさい。”その人々は教訓します。しかし聖書は彼の国と彼の義を先ず求めなさいとおっしゃいます。何をしようが神様の光栄を先ず思って神様を嬉しくする目的を持って働きなさいとおっしゃいます。他人よりもっとたくさん持ってもっと高い席に座ってもっと有名のが目標になって暮せば歳月がたつほど虚しい感情が心を満たして鬱病に陥るようになります。貴い歳月を浪費したということを一歩遅れて分かるようになります。

**第四、苦難と困境を神様をもっといろいろと考えて近付けることができるきっかけで作らなければなりません。**

苦難と困境に処してもっとたくさん祈ってもっとたくさん讚尿すれば鬱病が心に席を取る余地がなくなります。できれば声を出して聖書を読んで叫んで祈って手のひらを打って讚尿すれば多くの面で良い結果を得るようになります。

聖徒の皆さんは聖書の教えどおり実践して憂鬱な情緒が心に立つ余地がないようにしてください。もし心に入って来るようになってもまっすぐにとり除いて明るくて郎らかな心で生きて行くように願います。